

地域とともに育つ コミュニティ・スクール

令和7年3月14日

成田市教育委員会

コミュニティ・スクールによって、地域全体で学校（地域）の課題に向けて取り組む活動が進められています。

学校運営協議会の様子

それぞれの学校でどのような協議がされているのか、紹介いたします。

玉造中学校

1年間の活動を振り返るとともに、自己評価をもとに学校の課題について、協議が行われました。



●学校評価アンケート結果の考察を基にした自己評価より、課題の共通理解が図られました。

→生徒の授業への取組の様子や生徒が自主的に活動している様子を、もっと保護者へ知らせていけるとよいという意見が出されました。また、地域とコミュニケーションをとれる機会が増えると活動も広がるのではないかなという意見もあり、学校と地域との連携についても話題になりました。

●職場環境について

→先生方が一人一人の生徒に寄り添って指導しているので、そのよさを知ってもらい、学校公開や発信の仕方を工夫していくと、より一層教育活動の理解が深まるのではないかなという意見が出されました。また、先生方が生き生きと働いている様子が伝わり、力を発揮して働きやすい職場環境であるというお話もあり、キャリアに応じて課題意識をもって研修を積んでほしいとの意見が出されました。

●予餞会を参観して

→生徒同士がそれぞれのよさを認め合って関わりながら、行事等に取り組み、学校生活を送っていることが伝わってきたとの感想がありました。

中台中学校

1年間の活動を振り返るとともに、自己評価をもとに学校の課題について、協議が行われました。



●学校・家庭における教育課題について

→学校評価の結果や生徒の学校での様子から、学校より、生徒がまっすぐ伸びようとする環境を作っていきたいというお話がありました。社会に出た時に自分の意見をもって自立できる生徒を育てていくために、学校生活の中でも自主的な活動をさらに工夫してほしいという意見が出されました。

●学校教育活動への支援について

→学校支援地域本部の地域コーディネーターより、地域ボランティアの登録者が増え、具体的に学校の教育活動への支援が動いてきているというお話がありました。継続的にボランティアの募集をしていく必要があるとの意見や、年間スケジュールを地域へ発信し、地域人材の活用を広げていくとよいのではというアイデアも出されました。学校運営協議会での熟議が具体的な活動へとつながっています。

●次年度の学校経営方針について、学校より提案があり、次年度の方向性について共通理解が図られました。職員の働き方の改善についても意見が出されました。